

平成 29 年度
教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検・評価報告書



(出雲崎小学校 書き初め大会)

平成 30 年 3 月
出雲崎町教育委員会

目 次

	頁
はじめに	1
I 総合教育会議	3
II 教育委員会の会議及び活動状況	4
III 学校教育	7
1. 出雲崎小学校グランドデザイン	7
2. 出雲崎中学校グランドデザイン	11
3. 学校支援地域本部事業	15
IV 社会教育事業の実施状況	19
1. 社会教育・公民館事業	19
2. 図書館事業	26
3. 社会体育事業	28
V 学校・社会教育施設の整備充実	32
VI 学識経験者からの総合評価	33
VII その他	34

はじめに

1 点検評価の背景

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況等について、学識経験者を活用して、毎年教育委員会自らが点検・評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、公表することが義務づけられた。

本報告書は、これに基づき効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たすため、平成 29 年度の出雲崎町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価を行った結果を報告するものである。

2 学識経験者の知見の活用

平成 29 年度の点検・評価に当たっては、学識経験を有するものとして、前年度と同様に、元長岡市立北中学校長の山崎十五郎氏（柏崎市・旧西山町在住）から、第 5 次出雲崎町総合計画における教育関係の基本構想及び基本計画をふまえて、本年度事業及び次年度に向けて助言・指導を得た。

3 報告書の内容から見られる評価

- (1) 「教育委員の活動状況」については、年度半ばに新委員の編成もあったが、保護者や地域住民に対して、機会あるごとに情報の発信を行い、教育委員会活動の周知に努めている。

教育委員としての見識を深め、教育行政に反映させるべく、定例の教育委員会会議の終了後に、教育に関する直近の話題や諸問題について、講義と意見交換を合わせた勉強会として「教育委員研修」を実施している。

- (2) 「学校教育」については、学習面では 4 月に学力テスト（小 6・中 3）が実施され、小学校は国語・算数とも全国平均を下回っているが、授業の振り返りをさせることで向上が見られる。中学校は全国平均を大きく上回り、週末課題を課していることで学習の定着が図られてきている。全体的には、出雲崎の子供たちの家庭学習時間が少ないことが明らかとなっている。今後も小・中連携を通じた学習の習慣づくりと家庭との連携で家庭学習の充実を図っていく必要がある。

- (3) 学習指導、生徒指導の教育活動の充実を図るため、教員補助を配置することや中学校では外国語を通じて表現力、コミュニケーション力を身に付けさせるため英語指導員を配置している。

また、理科や数学に対する子供たちの興味、関心が薄れ、学力低下との指摘があることから、小学校 4 年生から 6 年生の理科には「理科支援員を配置」し、教員をサポートする体制の継続を図るとともに、中学校入学後における理科教育に対する意欲、関心等の充実及び学力向上に結び付くよう取り組んでいる。

- (4) 中学校に「情報教育支援員」を配置し、授業における理解や興味を深めるため電子黒板やタブレットを使った授業を行うなど、先生の負担軽減や生徒が授業に注目し易い環境を整え、多角的に教員のサポート体制の充実を図っている。

- (5) 環境省が募集した地球温暖化対策のための国民運動「クールチョイス」に小学校4年生が取組み、将来の夢を語りながらアイデアを出し、大人にも子供が考えるアイデアを伝える機会になり、全児童のこの取組が評価され特別賞を授与した。
- (6) 「社会教育」については、一人ひとりが主体的かつ積極的に社会教育事業に参加推進できるように環境整備を行ってきた。

特に「出雲崎総合大学」事業は、19年間継続している事業であるとともに、多彩な事業メニューを組み、年々参加者が増加しており、中核となる事業として事業展開がなされてきている。
- (7) 小学校児童の放課後での学びの場として、今年度から放課後子ども教室を実施し、講師による「英語活動」の充実を図っている。また行政機構改革により保健福祉課で行っている「放課後児童クラブ」を平成30年度から実施できるように引継ぎを進めている。
- (8) 学校・家庭・地域の連携促進事業により、子供たちが校外活動などで町内の自然や環境、農業体験などに取り組んだ。大勢のボランティアにより小中学校のグラウンド除草や小学校の裏山「ほなみが丘」整備に活躍頂いた。

4 今後の点検・評価にかかる重点事項について

次年度は、特に次の事柄に配慮しながら、取組んで参りたい。

- (1) 児童・生徒が一人の大人として成長していくためには、学校における教育だけでなく、地域や地域の人たちとの関わりが重要となってくる。

「出雲崎町教育計画」では、このような学校環境を考えたとき、小学校入学から中学校卒業までの9年間で小中連携した教育を行うことにより効果的な指導ができる。義務教育のまとめとなる中学校卒業時の“具体的な子ども像”を描き、そのことを実現するために各発達段階をふまえて、生活面（規範意識、社会性、ものの見方や考え方 等）と学習面（知識理解、活用力 等）を中心に、指導の方策・内容に共通性を持たせることが必要となる。実際の指導では、目標を連鎖させて「学校評価」「教員評価」を活用し、小中学校教職員が同歩調で児童生徒の指導に当たるよう取組んでいく。
- (2) 学習面では小中学校の9年間で発達段階に応じた指導を進めているが、学力テスト結果からさらに家庭学習の充実、定着を図り学力向上に努めたい。

総合学習等では、良寛学習を継続して行い、児童生徒一人ひとりが学習資料をファイル化し、学習成果の継続性を図っていき、その成果を称え中学校卒業時に「良寛学習修了証書 慈愛」を交付するなど、「ふるさと出雲崎・郷土の誇りである良寛の心」を持ち続ける学社連携事業を着実に進めたい。
- (3) 特別な支援が必要な児童生徒が増加傾向にあることから、特別支援教育の充実を図るため、介助員の配置や特別支援学級の増設により特性に応じた指導、支援を行い、基本的な生活習慣の定着、コミュニケーションや社会性の向上を支援していく。

また0歳児から18歳までの子供の教育、福祉、医療をつなぐ拠点として、子育ての不安や悩みを相談できる「子育て支援センター」の建設に向けて、関係機関と協力しながらH30年度オープンを目指して準備を進めている。

- (4) 町民が心豊かな人生をおくるため、「家庭・地域の教育力の向上」「家庭・地域・学校・行政が一体となった生涯学習の推進」「歴史・文化・芸術の振興」の3つを施策の柱として進めていく。

また、昨年度「生涯学習推進計画」の見直しを行い、今後はこの計画の基本目標である「学びの楽しさ、心の豊かさで、生きがいのもてるまちづくり」を目指して各種事業を実施していく。

- (5) 子供の一貫した見とりや指導の重要性から、平成30年度から保・小・中の連携を深めることとしたい。

I 総合教育会議

- (1) 新教育委員会制度により、町長が招集する「総合教育会議」を平成29年6月14日開催し、町長と出雲崎町の教育について意見交換を行い、教育現場の現状や今後の教育の総合的な施策の基本となる「大綱」の確認をした。

出席者	出雲崎町長	小林 則幸
	教育長	佐藤 亨
	教育委員	村越 隆夫・木川 勇三・棚橋 正吾・内山 才子
	教育課長	矢島 則幸
	教育課参事	金泉 嘉昭
	教育課課長補佐	権 頭 昇
	管理指導主事	高畑 秀紀

話し合い事項

- 1 出雲崎町の教育現場の状況について（教育長）

第5次出雲崎町総合計画における教育関係の基本構想及び基本計画である「夢・感性あふれる教育と歴史文化香るまちづくり」の推進に向けて出雲崎町の特色ある教育施策の取組みについて理解を求めた。

また、直近の問題として、学習指導要領が改訂されるため30年度から移行措置で外国語活動を行うことやいじめを出さない、許さない学校づくりをめざし、いじめが発生した場合の対応について確認した。

- 2 児童・生徒の様子について（管理指導主事）

小・中学校の児童生徒の様子、教職員の様子を把握し、校長のリーダーシップのもとでの教育活動の理解を求めた。また特別支援を必要とする児童生徒の指導や今年度の主な研究会の開催日程や出雲崎町教育計画の実践・評価をお願いした。

- 3 大綱について（教育課長）

上位計画である総合計画との整合を確認し、平成32年度までこの大綱で運用していくことを確認した。

Ⅱ 教育委員会の会議及び委員の活動状況

(1) 定例会および臨時会の開催（定例会 5 回、臨時会 2 回）		
会議	日付	審議事項等
4 月定例会	4/18	学校評議員、教育行政点検評価員の委嘱 奨学金の貸与 (議案 3 件)
6 月定例会	6/14	奨学金貸与基金の設置・管理及び運営に関する条例 及び同条例施行規則の一部改正 奨学金返還支援事業助成金交付要綱の一部改正 文化財調査審議会委員、社会教育委員、公民館運営 審議会委員の委嘱、補正予算 (議案 7 件)
7 月臨時会	7/27	使用教科書用図書の採択 (議案 1 件)
9 月定例会	9/ 6	補正予算 (議案 1 件)
12 月定例会	12/4	子育て支援に関する条例及び同条例施行規則の一部改正 補正予算 (議案 3 件)
3 月定例会	3/6	体育施設の設置及び管理に関する条例及び同条例 施行規則の一部改正 奨学金貸与基金設置、管理及び運営に関する条例施 行規則の一部改正 H29 年度補正予算、H30 当初予算、教育委員会表 彰 (議案 7 件)
3 月臨時会	3/19	教職員及び教育委員会の人事異動、子ども読書活動 推進計画の制定 (議案 2 件)
(2) 教育委員研修		
・新潟県市町村教育委員連合会総会・研修会 〈十日町市〉(7 月 21 日/金)		
・庁内研修 5 回 「4/18・6/14・9/6・12/4・3/6」		
(3) その他の参加活動状況		

・ 転入教職員面識会（4 月 3 日／月）
・ 小・中学校入学式（4 月 7 日／金）
・ 町教育研究会研修会、総会（5 月 2 日／火）
・ 文化芸術鑑賞会（6 月 26 日／月）落語パラダイス
・ 出雲崎小学校運動会（5 月 27 日／土）
・ 町成人式（8 月 16 日／水）
・ 出雲崎中学校体育祭（9 月 9 日／土）
・ 出雲崎小学校音楽発表会・絵画展（10 月 21 日／土）
・ 出雲崎中学校学習発表会（10 月 21 日／土）
・ 生涯学習フェスティバル（11 月 2 日／木・3 日／金）
・ 未来の夢こども体験講演会（10 月 24 日／火） 講師 ビリギャルモデル『小林さやか』氏
・ 学校施設営繕視察検討会（12 月 4 日／月）
・ 深めよう絆県民の集い（9 月 25 日／月）
・ 出雲崎小学校ハッピーハート集会（11 月 17 日／金）
・ 出雲崎中学校いじめ見逃しゼロスクール集会（12 月 5 日／月）
・ 町教育委員会表彰伝達式（3 月 6 日／火）
・ 中学校卒業式（3 月 5 日／月）
・ 小学校卒業式（3 月 23 日／金）

➤概要

平成 29 年度の教育委員会会議は、定例会を 5 回、臨時会を 2 回開催し、24 件の議案を審議した。総合教育会議は児童・生徒等の生命・身体等の緊急の講ずべき課題はないために 1 回の開催となった。

また、教育委員の活動状況は、年間を通して学校行事や研修会、社会教育行事等に積極的に参加していただくなど、自らが教育委員としての資質の向上や、児童生徒の活動状況を把握でき、幅広い教育分野の中で活動いただいた。

➤成果と課題

- （1） 町長と教育委員による総合教育会議の開催より、新教育委員会制度の再確認や特別支援教育の充実、キャリア教育の推進、学校支援体制の強化を図るなど、両者の教育施策の方向性を共有し、一致して執行にあたることを確認できた。

- (2) 教育委員会を開催する際は、定例的に教育委員研修を実施することで、教育や子育て支援に関する新制度や児童生徒の現状を速やかに報告するなど教育委員と事務局の情報共有を進め審議の活性化に努めた。
- (3) 小・中学校の休業日（夏休み）について、現在の国の学習指導要領で定める授業時数の確保が困難になってきていることから、現行の休業日の改正を行い、学校長の裁量で柔軟に対応できるようになった。
- (4) いじめ問題では、小学校でいたずらによる言動が見られたが、即対応したことで大きな問題にはならなかった。今後も「出雲崎町いじめ防止基本方針」による取組や学校とPTA、保護者などと連携しながら、「いじめを生まない、いじめを絶対見逃さない」意識を醸成していく。
- なお、いじめの認知件数は減少傾向にあり各校のいじめ防止の取り組みは着実に成果を上げている。
- (5) 道徳の授業化に向けて、中学校では「新潟県中学校研究会」の指定を受け、11月10日に1年生、2年生で授業公開を行い、上越教育大学教授より実践に向けて指導いただいた。
- (6) 自然体験として今年度から小4～小6までを対象にスキー教室を行った。新潟県内に住みながらスキー体験の機会が少ないことから学校生活では体験できない自然環境での体験から心身、技能を高める目的で今後も続けていく。
- (7) 教育支援相談は教育課と保健福祉課で連携して対応している。職員（保健師）による聞き取りや助言を行い、ケースによっては専門員による巡回指導やスクールカウンセラー事業での臨床心理士による相談により、児童生徒の保護者への支援を行っている。
- (8) 昨年度から高校生の通学に係る保護者の経済的負担の軽減を図るため、通学定期券購入費用の一部を助成しており、通学が困難で寮生活されている生徒も対象にしている。また、今年度からは若者の定住促進を図るため、奨学金の貸与を受け大学・専門学校等に就学した学生が卒業後に当町に定住し就職された場合に返還する奨学金の一部を助成する制度を創設した。
- (9) 小・中学校に入学する児童・生徒の保護者に対し、入学祝い金を入学前の3月に支給し、保護者の経済的負担軽減が図られた。



総合学習（大阪商人体験）

III 学校教育

1. 出雲崎小学校

知育

主体的な学び

○「確かな学力」向上のために

重点的な取組

- * 朝読書、朝学習の充実と基礎学力の向上
- * 授業のUD化と個人の困り感に対応した
- * 学年×10分以上の家庭学習指導の徹底
- * 児童の「問い」を大切に授業改善の推進 指導
- * スピーチ朝会等の発表の場の充実



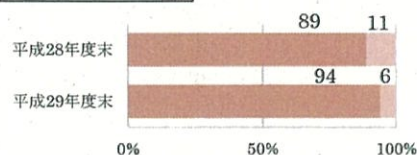
6年研究授業



1年生活科「ろろを迎える会」

・「授業がわかる」と肯定的に考えている児童は、昨年度よりも増えています。今後も、学習の見通しをもたせ、振り返りを充実させていきます。

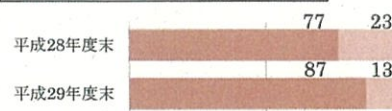
授業がわかる。(児童)



全グラフ共通 ■はい (%) ■いいえ (%)

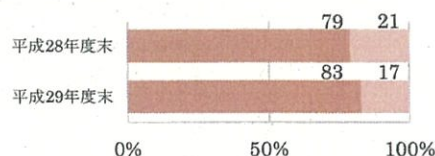
・家庭学習の習慣化している児童の割合は昨年度より向上しています。家庭学習の仕方が分かりを工夫しながら取り組んでいる児童が増えてきたものと思います。

学年×10分以上の家庭学習を忘れずにできた。(児童)



・学習の見通しを持つことで学習意欲が向上し、めあてをもって学習に取り組むことができました。また、多くの地域の方から活動に関わっていただき、活動の充実を図ることができました。

生活科や総合的な学習の時間にめあてをもち、学習したことを文章や絵・図などにまとめている。(児童)



次年度に向けて

★児童一人一人に学習意欲をもたせるために授業の導入を工夫していきます。また、目当てをもたせ振り返りを行うことで一人一人が「わかる・できる」と感じる授業を工夫していきます。

★文書等で家庭ぐるみの協力を得ながら家庭学習の定着を図っていきます。

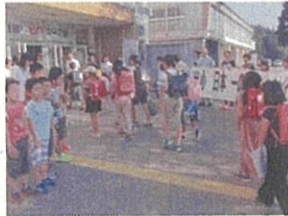
徳育

豊かな心

○豊かな心の育成のために

重点的な取組

- * 「心耕」を大切に活動と指導
- * 基本的生活習慣の定着と向上
- * 「命を大切にする心」を育てる道徳教育の充実
- * 特別支援教育や特別活動、異学年交流等を通した思いやりと助け合いの心の育成
- * 児童同士、児童と地域の触れ合いの場の設定



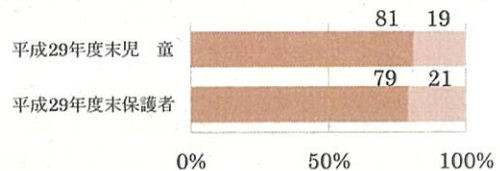
あいさつ運動



低学年ハッピーハート集会

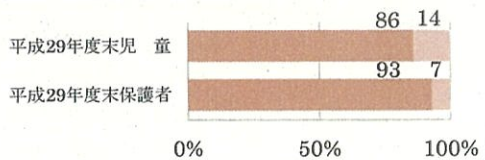
・あいさつ運動の期間中のあいさつは良いですが、その期間が終わるとよくないという実態があります。いろいろな場での指導をとおしてよいあいさつが習慣化できるようにしていきます。

自分から進んであいさつをしている。



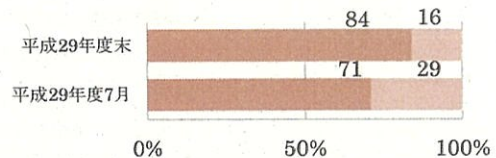
・児童、保護者とも2学期末評価の数値は高くなっています。今後も100%の児童が「学校は楽しいと感じられるように取り組んでいきます。

学校は楽しい。(児童)
喜んで学校に通っている。(保護者)



・児童アンケートから2学期末は、肯定的な評価が増えていきます。様々な教育活動を通して友達関係の深まりを見ることができました。

友達のよいところを見つけて、ほめたり励ましたりしている。(児童)



次年度に向けて

★児童会との連携を図り、挨拶や廊下歩行等、児童の手で約束を作り約束を守っていく意識を高めていきます。

★今後も児童一人一人との面談や定期的に行っている「子供を語る会」を通して児童理解に努めていきます。

体育

健康な体

○健やかな体づくりのために

重点的な取組

- *保健学習や学級指導、給食時の指導の徹底
- *メディアコントロール能力を育てるための家庭ルールづくりの奨励
- *体力向上のためにプログラム化した運動の実践
- *遊びが十分できる環境づくり（学校の施設設備の充実）
- *発達段階に応じた食育のための学習の充実



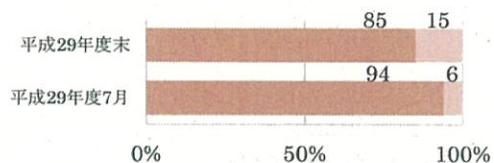
マラソン大会



食育の授業

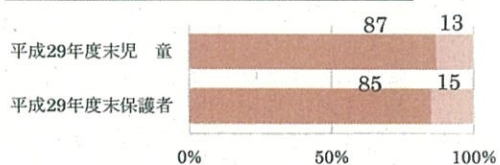
・水泳、マラソン練習等で前年度の自分の記録を基に今年度の目標設定をして取り組みました。体力テストでは、全学年が平均又は平均以上の結果でした。

運動会・体力テスト・マラソン大会・水泳などで自分のめあてを立てて、めあてに向かって練習したり努力したりしている。（児童）



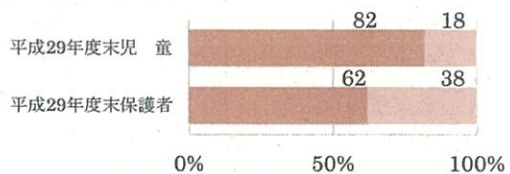
・ハッピーライフウィークの取組の前に前回の結果を配布して振り返りを行うことで意欲付けを図ることができました。今後も健康な生活が継続できるような取組を図っていきます。

ハッピーライフウィークでカードを使い毎日健康な生活を送ることができた。



・アンケートの結果、約束を守ることについては、児童と保護者には大きな開きがありました。約束を守ることの大切さについて指導していきます。

家で決めたテレビやゲームの時間の約束を守ることができた。



次年度に向けて

★体力テストでは、課題となる種目の運動につながる運動を体育等の準備運動に取り入れて課題の改善を図っていきます。

★ハッピーライフウィークの実施期間だけでなく、継続して取り組めるような手立てを考えていきます。

保護者の声

○肯定意見 ●課題

- 高学年になり、普段の様子が少し見えにくくなっているような感じです。いつでも相談しやすい雰囲気、先生方には感謝しています。これからもよろしくお願いします。
- 毎回の事です、子供たちの言葉遣いが気になります。遊びやゲームをしているときなど「死ね」というワードが飛び交っている事がすごく残念です。家に遊びに来る子供には注意しますが、おもしろおかしく遣っているのが悲しいです。
- 「なんでだろう?」「知りたい!」「〇〇だった!!」「〇〇って知ってる?じつは・・・」今までテレビ(アニメ)やゲームの話が多かったのですが、校外学習や講演を通して自分の身のまわりの事や授業の内容の話が増えてきたと思います。特に、エネルギーやリサイクルについてはとても興味があるようです。校外学習などは、子供たちの意欲を高めてくれるし良い刺激になると思うので、これからも取り入れてほしいです。
- 私たちが住んでいる地区の子供たちは以前は決められた通学路以外の道を帰ってくる子供がいましたが、今はしっかり決められた道を通り、進んであいさつをすることが多くなりました。車にも注意して歩いています。
- 交通安全について全体的にルールを守っていない姿が見受けられます。メディアや防災も大事ですが、特に命にかかわる交通ルールについて啓発する機会を充実してもらおうよう要望します。
- いつも親身になってくださり、ありがとうございます。
- クラブが始まり以前より学校が楽しいと話しています。校外学習や講師の方の授業も楽しんで受けています。ただ、友達とのつきあい方(話し方や接し方)に少し悩んでいるようです。家でも様子を気にかけられているのですが、学校でも気にして頂けると助かります。

保護者の声を受けて

*あいさつについて

地域において子供たちのあいさつが良くなってきていると感じられていることは、学校としても嬉しく思っています。一方、学校でのあいさつは良いとは言えません。地域であいさつが良くなってきたこと等を紹介しながらよりよいあいさつができるように指導していきたいと思っています。

*学習意欲を高める指導について

今年度グランドデザインの重点目標の一つに「意欲的に学ぶ子ども」があります。意欲的に学ばせる手段として、当校では、分かる・できる喜びを実感させる授業や校外学習等の体験的な学習を重視して取り組んでいるところです。ご意見のように家庭内で校外学習や講演等の話題が出てくることは学習意欲が向上してきた証だと思います。今後も学習意欲を高めることを一つの柱として学力向上を図っていきます。

*言葉遣い・友達との接し方等について

校内においてもちょっとしたことで乱暴な言葉遣いをする児童もいます。相手や場に応じて正しい言葉遣いができるように今後も指導していきます。また、学年が上がるにつれて友達との接し方に悩む児童もでてきます。ホットタイム週間等一人一人との面談を通して児童の悩みや相談にのる機会を作っていますが、今後も一人一人の見取りをしっかりとしていきます。

*交通安全について

交通安全については、ご指摘のように命にかかわることですので、きちんと指導していかなければなりません。学校においても春の交通安全教室・登校指導・下校指導等を通して指導していますが、繰り返しの指導が大切ですので、家庭においてもお気付きの点がありましたらそのつど指導をお願いいたします。

2. 出雲崎中学校

5

平成29年度 出雲崎中学校グランドデザイン

生徒の実態

- ・素直で明るく活発である。
- ・より向上しようとする意欲に欠ける面がみられる。
- ・自らの習慣が身に付いていない。
- ・郷土の自然や文化への関心が薄い。

地域や保護者の願い

- ・素直で、やさしく、元気な人間に育つことを望んでいる。
- ・古くからある歴史、文化を理解し、出雲崎町に誇りを持ち、将来出雲崎町のために尽くす人間に成長してほしいと考えている。
- ・個人として自立し、自ら判断し、行動できる人間になって欲しいと願っている。

教育目標
豊かな心（徳）たくましい実践（知）（体）

29年度の重点課題
・人間関係づくり（徳）
・学力の向上（知）

出雲崎町教育計画

- ・出雲崎町がめざす教育の姿をもち、感性豊かで、たくましいことと作
- （知）9年間を見通した系統だった指導計画の作成と実行
- （知）発達段階を越えた学習環境の確立
- （知）発達段階に応じた授業と結びついた家庭学習の確立
- （徳）豊かな感性を養った自立した人間の育成
- （体）発達段階に即した基本的な生活リズムの確立
- （特別支援）一人一人の障害に応じた関係機関と連携した継続的な指導

年度の重点目標 = 育てたい生徒の姿
（知）意欲をもって、わかるまで、できるまで学ぶ生徒
（体）目的をもって自己に挑戦し、自ら鍛える生徒
（徳）お互いを思いやる、心優しい生徒

年度の努力事項

重点目標	徳：お互いを思いやる心優しい生徒	知：意欲をもってわかるまでできるまで学ぶ生徒	体：目的をもって自己に挑戦し自ら鍛える生徒
努力事項	1 相手の立場を考えて行動するコミュニケーション能力を育成する。 2 互いに関心を持ち、関わり合う活動を通して自己肯定感、自己有用感を育む。 3 人権教育・同和教育の充実を通して、差別や偏見をしない・させない人間関係づくりを醸成する。	1 知能・技能の着実な習得と、活用場面の充実を通して、学びの真実を育む。 2 言語活動の充実を通して、考えを深められる生徒を育成する。 3 キャリア教育の充実を通して、学ぶ意義や目的を見出し、主体的に学ぶようとする意欲を育む。	1 具体的な目標をもって、継続的に体力の向上を図ろうとする生徒を育成する。 2 自己管理に対する高い意欲をもち、基本的な生活習慣（メディアコントロール・睡眠時間・食生活）を確立する生徒を育成する。

目標達成計画

	自己肯定感・自己有用感	学力向上	体力の向上
成果	・多くの生徒が「自分にもよい点がある」「集団の役に立っている」と実感して学校生活を送る。	・12月のまとめテストの結果が基幹を上回る。	・新体力テストで、48項目中、県平均を33項目以上超える。
教育活動	ア 専門委員会や学級の保健活動などで積極的に活動し自分の役割を果たす。 イ 友達の良いところやがんばりを認め、それを相手に伝えることができる。	ア チャイムと同時に学習活動に取り組む。 イ 繰り返し学習したり、より難しい課題に取り組んだりする。 ウ 毎日60分以上家庭学習に取り組む。	・運動やスポーツに親しみ、意欲的に取り組む。
運営活動	ア 自主的、自発的な勤労・奉仕活動が行われ、学級活動、生徒会活動、部活動など諸活動において、生徒たちが互いのよさやがんばりを認め合う学習活動を取り入れる。	ア チャイムと同時に学習活動を毎時間準備する。 イ 習得や活用場面を明確にした授業を展開する。 ウ 終学活で生活ノートの家庭学習の予定を毎日点検する。	・新体力テストの結果を分析し、生徒一人一人の課題に基づいたトレーニング法を指導する。 （自主トレーニングカードを活用し、6ヶ月後の数値向上を目指したトレーニングを行わせる。）
成果	・多くの生徒が安心して過ごせる学校、学級集団であると感じる。	・学ぶ意欲や目的を明確にし、意欲的に学習に取り組む生徒の割合が増える。	・基本的な生活習慣の確立
教育活動	ア 相手の立場を尊重した言動をとっている。 イ 悩みや困ったことがあったら、誰かに相談できる。	ア 理解や解決の過程を説明したり丁寧に答へたりする。 イ ワークに計画的に取り組み、期限を守って提出する。 ウ 進路や生き方に関する目標を設定し、体験活動に取り組む。	・ハッピーライフワーク中での3項目を意識しながら生活できる生徒が80%以上になる。 ・自己の健康に関心を持ち、自主的に健康を維持、管理できる。
運営活動	ア 学級活動、生徒会活動、部活動など諸活動において、生徒に望ましい模範のモデルを指導する。 イ 生徒の様子・生活ノート・人間関係に関する意識調査を生かして生徒に連んで声かけを行う。	ア 学び合いや関わり合いが生まれる学習課題や学習形態を工夫する。 イ 提出物の期限や取り組み方を継続して定期的に指導する。 ウ 総合的な学習の指導で、事後のまとめ方を見通して、事前の指導を行う。	・全職員がハッピーライフワーク中に生活習慣改善に向けた取組を生徒・保護者に行う。

評価サイクルによる評価の実施

学校評価（内部評価・外部評価・学校関係者評価）

評価結果の公表（保護者、地域）

次年度の課題・改善へ

特別支援教育

目標 一人一人の特別な教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行うことにより、将来的に自立した社会生活を送るための基礎的・基本的な知識と技能を身に付けさせる。

1年時
◎中学校生活のリズムを掴ませ、学校生活への適応を促す
◎生徒の状況を正しく伝え、保護者との連携を強める

個別指導の充実

2・3年時
◎自己理解を促し、自分の適性に合わせて良さを伸ばし、自己肯定感を高める
◎生徒の状況を正しく伝え、保護者との連携を強める
◎進路に目を向けさせ、学習・生活の自立を促進する

平成29年度 出雲崎町立出雲崎中学校 学校の目標達成計画 取組の成果

知	評価項目	評価基準	評価	備考
学力向上	・12月のまとめテストの結果が基準を上回る。	全体平均を100として A: 105以上の教科が10/15以上 B: 100以上の教科が10/15以上 C: Bに満たない	A	105以上が 1年4/5 2年5/5 3年2/5 全校11/15
	ア チャイムと同時に学習活動に取り組む。	生徒の授業アンケートで A: 95%以上が肯定的評価 B: 80%以上が肯定的評価 C: Bに満たない	A	肯定的な評価割合99.5% 1学期 1年98.9 2年100 3年100 全体99.6 2学期 1年99.2 2年98.9 3年100 全体99.4
	イ 繰り返し学習したり、より難しい課題に取り組んだりする。	生徒の授業アンケートで A: 75%以上が肯定的評価 B: 60%以上が肯定的評価 C: Bに満たない	A	肯定的な評価割合95.3% 1学期 1年92.6 2年99.4 3年92.6 全体94.8 2学期 1年95.3 2年98.4 3年93.7 全体95.8
	ウ 毎日60分以上家庭学習に取り組む。	生徒の学校生活アンケートで A: 65%以上が肯定的評価 B: 50%以上が肯定的評価 C: Bに満たない	A	肯定的な評価割合74.7% 1学期 1年67.7 2年75.2 3年80.0 全体74.4 2学期 1年50.0 2年81.0 3年93.3 全体74.1
運営活動	ア チャイムと同時に行う学習活動を毎時間準備する。	教師の評価で A: 全教師が肯定的評価 B: 2/3以上が肯定的評価 C: Bに満たない	B	肯定的評価人数 21/23 1学期 10/11 2学期 11/12
	イ 習得や活用の場面を明確にした授業を展開する。	教師の評価で、複数単元において A: 全教師が肯定的評価 B: 2/3以上が肯定的評価 C: Bに満たない	B	肯定的評価人数 19/21 1学期 9/10 2学期 11/11
	ウ 終学活で、生活ノートの家庭学習の予定を毎日点検する。	教師の評価で A: 生活ノートを点検する全職員が肯定的評価 B: 2/3以上が肯定的評価 C: Bに満たない	B	肯定的評価人数 19/21 1学期 9/10 2学期 10/11
自ら学ぶ意欲の育成	・学ぶ意義や目的を明確にし、意欲的に学習に取り組む生徒の割合が増える。	教育活動のア、イ、ウの評価で A=3点、B=2点、C=1点として、合計が A: 8、9点 B: 5~7点 C: 3、4点	A	平均評価点数 9点 1学期末は9点 2学期末は9点
	ア 理解や解決の過程を説明したり丁寧に書いたりする。	生徒の授業アンケートで A: 75%以上が肯定的評価 B: 60%以上が肯定的評価 C: Bに満たない	A	肯定的な評価割合86.6% 1学期 1年81.6 2年95.1 3年80.8 全体85.8 2学期 1年86.3 2年93.0 3年82.6 全体87.3
	イ ワークに計画的に取り組み、期限を守って提出する。	教師の見取りで A: 75%以上が肯定的評価 B: 60%以上が肯定的評価 C: Bに満たない	A	肯定的な評価割合86.1% 1学期 83.3% 2学期 88.9%
	ウ 進路や生き方に関する目標を設定し、体験活動に取り組む。	教師の見取りで A: 65%以上の生徒が適切に目標設定 A: 50%以上の生徒が適切に目標設定 C: Bに満たない	A	肯定的な評価割合91.0% 1学期 97.7% 2学期 84.3%
	ア 学び合いや関わり合いが生まれる学習課題や学習形態を工夫する。	意図的に実施しているかについての教師の評価 A: 全教師が肯定的評価 B: 2/3以上が肯定的評価 C: Bに満たない	B	肯定的評価人数 16/22 1学期 7/11 2学期 9/11
	イ 提出物の期限や取り組み方を継続して定期的に指導する。	教師の評価で A: 全教師が肯定的評価 B: 2/3以上が肯定的評価 C: Bに満たない	A	肯定的評価人数 22/22 1学期 12/12 2学期 10/10
	ウ 総合的な学習の指導で、事後のまとめ方を見通して、事前の指導を行う。	教師の評価で A: 全教師が肯定的評価 B: 2/3以上が肯定的評価 C: Bに満たない	B	肯定的評価人数 20/21 1学期 10/11 2学期 10/10

徳	評価項目	評価基準	評価	備考
自己肯定感・教育活動有用感	・多くの生徒が「自分にもよい点がある」「集団の役に立っている」と実感して学校生活を送る。	生徒の学校生活アンケートで A：肯定的な評価割合が80%以上 B：肯定的な評価割合が60%以上 C：Bに満たない	A	肯定的な評価割合 82.2% 1学期末 81.1% 2学期末 83.4%
	ア 専門委員会や学級の係活動などで積極的に活動し自分の役割を果たす。	生徒の学校生活アンケートで A：肯定的な評価割合が90%以上 B：肯定的な評価割合が75%以上 C：Bに満たない	A	肯定的な評価割合 92.7% 1学期末 93.9% 2学期末 91.4%
	イ 友達の良さががんばりを認め、それを相手に伝えることができる。	生徒の学校生活アンケートで A：肯定的な評価割合が80%以上 B：肯定的な評価割合が60%以上 C：Bに満たない	A	肯定的な評価割合 87.8% 1学期末 86.6% 2学期末 88.9%
	運営活動 ア 自主的、自発的な働勞・奉仕活動が行われるように活動の目的と手段について指導する。	教師のアンケートで A：肯定的な評価割合が80%以上 B：肯定的な評価割合が60%以上 C：Bに満たない	A	肯定的な評価割合 90.6% 1学期末 93.7% 2学期末 87.5%
	イ 学級活動、生徒会活動、部活動など諸活動において、生徒たちが互いのよさががんばりを認め合う評価活動を取り入れる。	教師のアンケートで A：月1回は取り入れた職員が80%以上 B：学期1回以上は取り入れた職員が80%以上 C：Bに満たない	B	1学期末の結果 月1回は取り入れた職員:25% 学期1回以上は取り入れた職員:93.7% 評価の場を設定できなかった:13% 2学期末の結果 月1回は取り入れた職員:25% 学期1回以上は取り入れた職員:66.7% 評価の場を設定できなかった:33.3%
豊かな人間関係づくり	・多くの生徒が安心して過ごせる学校、学級集団であると感ずる。	生徒の学校生活アンケートで A：肯定的な評価割合が90%以上 B：肯定的な評価割合が75%以上 C：Bに満たない	B	肯定的な評価割合 79.8% 1学期末 79.3% 2学期末 80.2%
	ア 相手の立場を尊重した言動をとっている。	生徒の学校生活アンケートで A：肯定的な評価割合が90%以上 B：肯定的な評価割合が75%以上 C：Bに満たない	B	肯定的な評価割合 89.0% 1学期末 87.8% 2学期末 90.1%
	イ 悩みや困ったことがあったら、誰かに相談できる。	生徒の学校生活アンケートで A：悩みや困ったことがあったら、誰かに相談できたと回答する生徒の割合が95%以上 B：誰かに相談できたと回答する生徒の割合が80%以上 C：Bに満たない	C	肯定的な評価割合 79.2% 1学期 1年64.5 2年65.7 3年83.3 全体75.8 2学期 1年83.3 2年71.4 3年86.7 全体81.5
	運営活動 ア 学級活動、生徒会活動、部活動など諸活動において、生徒に望ましい模範のモデルを指導する。	教師のアンケートで A：肯定的な評価割合が80%以上 B：肯定的な評価割合が60%以上 C：Bに満たない	B	肯定的な評価割合 65.7% 1学期末 68.8% 2学期末 62.5%
	イ 生徒の様子・生活ノート・人間関係に関する意識調査等を生かして、生徒に進んで声かけを行う。	教師のアンケートで A：肯定的な評価割合が80%以上 B：肯定的な評価割合が60%以上 C：Bに満たない	A	肯定的な評価割合 87.6% 1学期末 93.8% 2学期末 81.3%

体	評価項目	評価基準	評価	備考
体力の向上	・新体力テスト（全国共通テスト）で、48項目中、県平均を33種目以上超える。	新体力テストの結果で A：県平均を33種目以上超える B：県平均を30種目以上超える。 C：Bに満たない。	C	29年度県平均（暫定値）との比較 男子 1年3 2年7 3年4 女子 1年2 2年6 3年4 計26
	・運動やスポーツに親しみ、意欲的に取り組む。	生徒の授業アンケートで「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか」という質問に A：肯定的な生徒が90%以上 →否定的な生徒が7人以下 B：肯定的な生徒が85%以上 →否定的な生徒が12人以下 C：Bに満たない。	A	授業アンケート結果 1年1学期 100% 否定的な生徒0 2学期 100% 否定的な生徒0 2年1学期 95% 否定的な生徒1 2学期 100% 否定的な生徒0 3年1学期 100% 否定的な生徒0 2学期 100% 否定的な生徒0
	・新体力テストの結果を分析し、生徒一人一人の課題に基づいたトレーニング法を指導する。 （自主トレーニングカードを活用し、6ヶ月後の数値向上を目指したトレーニングを行わせる。）	2学期後半に室内7種目を再測定し、4種目以上向上した生徒（1・2年生）が A：80%以上を越える。 B：65%以上を越える。 C：Bに満たない。	C	2年 男子 2名（25%） 女子 2名（15%） 1年 男子 16名（69%） 女子 10名（83%） 計 57.7%
基本的な生活習慣の確立	・ハッピーライフでの3項目を意識しながら生活できる生徒が80%以上になる	・4回のハッピーライフの数値が80%以上となった項目が A：3項目 B：2項目 C：Bに満たない	C	第1回 第2回 第3回 睡眠 78.9 77.8 69.4 メディア 80.9 78.2 74.9 朝食 88.0 87.9 86.1
教育活動の充実	・自己の健康に関心をもち、自主的に健康を維持管理できる。	・生徒の学校生活アンケートの以下の質問であなたが健康でいるために次の2つは、どのくらい大切だと考えていますか。 <食事をしっかり取ること> 1 大切 2 やや大切 3 あまり大切ではない 4 大切ではない <よく寝ること> 1 大切 2 やや大切 3 あまり大切ではない 4 大切ではない A：全ての生徒が肯定的であるである B：肯定的な生徒が97%以上 C：Bに満たない。	B	1学期学校生活アンケート結果 <食事をしっかり取ること> 肯定的な生徒 97.6% <よく寝ること> 肯定的な生徒 98.8% 2学期学校生活アンケート結果 <食事をしっかり取ること> 肯定的な生徒 98.8% <よく寝ること> 肯定的な生徒 98.8%
運営活動	・全職員が元気アップ運動中に生活習慣改善に向けた取組を生徒・保護者に行う。	・教師の評価で、生徒・保護者いずれかに働きかけたと答える割合が、 A：90% B：75%以上 C：Bに満たない	B	肯定的な評価割合 93.4% 1学期の評価結果 4段階7 3段階6 2段階2 肯定的な評価割合 86.7% 2学期の評価結果 4段階5 3段階10 2段階0 肯定的な評価割合 100%

3. 学校支援地域本部事業



運営委員長 内 藤 仁

日頃、学校支援地域本部事業にご理解とご協力をいただき、衷心より感謝申し上げます。皆様からの温かいご支援により、子供たちはたくさんの思い出やすてきな体験をすることができました。当町の教育目標「夢・感性あふれる教育と歴史文化香るまちづくり」を具現する教育活動が、今年度も小中両校で行われたことを喜ばしく思います。

本リーフレットを通して、小中学校の活動の一端を皆様にご報告させていただきますとともに、今後も変わらぬご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



良寛紙芝居披露



グレートヒルス餅つき大会



新潟巡検発表



風景画講習会



書写指導



俳句教室



茶道クラブ活動



あいさつ運動

1年

大すき いっぱい なかよし いっぱい

～みんなでなかよくチャレンジ～

入学してから、ドキドキワクワクしながら、たくさんのことにチャレンジしました。ヤギの「ろろ」とのふれあいでは、命の温かさを感じ、みんなで力を合わせる大切さを学びました。ほなみが丘の自然や、芋掘り、そり遊びなど、自然・生き物・人々との関わりはすてきな宝物になりました。



ヤギと遊ぼう



ほなみが丘探検



サツマイモ掘り

2年

わくわくチャレンジ! にこにこパワー!

～自然の恵み・地域の方との出会い～

2年生は野菜作りにチャレンジしました。自然の恵みと畑の先生のサポートを受けて、夏野菜も冬野菜も元気に育ちました。夏野菜はピザ、冬野菜はおでんに。穫れたての野菜の味は格別でした。JA「青空市」での大根販売には地域の方が大勢来てくださいました。畑の野菜たちと一緒に、子供たちの心もぐんぐん大きく育ちました。



「おでん」作りにチャレンジ!



JA「青空市」大根販売



畑の先生からアドバイス

3年

わたしたち・ぼくたち自まんの出雲崎町

～いいこといっぱい出雲崎!～



大漁旗を作ろう



大きな除雪車を見せてもらいました



迫力満点の獅子舞です



いちじくでおいしいジャム作り



神社には何があるのかな

春 自分たちが知っている出雲崎のいいところをたくさん取り上げて、4枚の大漁旗に表しました。

夏 地域を歩き、たくさんの人たちと出会い、町の中から楽しく過ごせる場所や良寛様にかかわる場所を見付けました。牧場ではたくさんの生きものと触れ合いました。

秋 地域のお祭りや行事を調べたり、獅子舞や昔の出雲崎が分かる道具を見に行ったりしました。出雲崎町の伝統を受け継ぐ行事や芸能、食文化に触れることができました。たくさんの自慢したい「いいこと」を見付けました。

学校の取組

4年

宝がいっぱい出雲崎 ～自然と共に生きる～



ほなみが丘で遊びの達人になろう



一番身近な宝物「ほなみが丘」では遊びの達人になるべく、たっぷり自然と触れ合いました。また、社会科では町の消防・水道・ごみ・警察について様々な方々から直接教えていただき、身近な問題として捉えることができました。地球温暖化についても学び、エコパーク出雲崎では発電体験学習やソーラーパネルの見学を行いました。環境問題と大好きな出雲崎町の未来を結びつけて考え、行動する子供たちに成長しました。

5年

食と命 ～命のつながりを考えよう～



収穫の喜び! 稲刈り体験



初めてのはざかけ



育苗センターや、米作り体験などを通して、たくさんのことを学びました。食物を育てることの大変さや、食を支えている方々の努力に気づき、命について考えました。また、餅つき、児童自身が考案した米料理実習等、収穫した新米や餅米を味わい、収穫の喜びを感じることができました。調べ活動や地域の方々とのかわわりを通して、出雲崎の様々な食の恵みを知り、感謝する貴重な機会となりました。



児童考案レシピによる米料理実習

6年

ふるさとに生きる ～これからの自分の在り方を考えよう～



高橋進さんに学ぶ



巨大書に学ぶ

佐渡からの金銀荷揚げや北前船の寄港地として栄えた出雲崎町。どのように歴史を刻んできたかを学習しました。また、様々な分野で活躍される方々に来校していただき、経験談を聞きました。子供たちへの励ましの言葉も頂きました。話を聞くことを通して、子供たちは現在の自分を見つめ直しました。将来の自分や出雲崎町の姿を想像し、よりよくするため、粘り強く何度も自分の考えを練り上げながら学びを深めました。



佐渡旅行 良寛さんの母の故郷を訪ねる

出雲崎中学校の取組 ～ふるさとへの愛着と誇りを育てる～

ふるさとの魅力あふれる人から学ぶ

良寛や出雲崎在住の方々から生き方を学びました。



出雲崎人に学ぶ



良寛史跡巡り

ふるさとを知る・考える

出雲崎の伝統や文化を学んだり、他地域から出雲崎の未来を考えたりしました。



3年大阪商人体験
～出雲崎特産品を販売～



妻有風景画講習会



出雲崎大祭へ参加



2年新潟巡検



体育祭で出雲崎おけさ

ふるさとに貢献する

『学ぶ』だけでなく、出雲崎のためにできることは何かを考え、取り組みました。



福祉施設ボランティア



資源物回収



親子奉仕作業

Ⅳ 社会教育事業の事業実施状況

1. 社会教育・公民館事業

①青少年教育事業

事業名	事業の対象	実施内容
出雲崎ッズ	小学校全児童	実施回数 低学年：3回実施（8月） 高学年：4回実施（7月～8月） 夏休み期間中のみ実施 参加者数 低学年：計102人 高学年：計53人 実施内容 出雲崎・与板交流会（高学年） ドライアイス大実験（高学年） 自然体験とクッキング（低学年） 出雲崎の歴史探検（低・高学年） レクリエーション活動（低・高学年） 課題等 大勢の児童が参加している。 児童の学習意欲を引き出せるよう、指導力の向上と内容の充実を図る
夜間キッズ （ノーマディア・デー）	小学校4～6年生の児童	実施回数 全22回実施（4月～3月） 0の付く日の平日19：00～20：30 参加者数 1回あたり約10人 実施内容 レクリエーション（多種多様なメニューを用意） 課題等 参加者が少ない。 さらなる周知が必要かと思われる。 曜日を決めて実施してほしいという声があった。
学びアシスト 『いずも館』 （ノーマディア・デー）	中学校全生徒	実施回数 全22回実施（4月～3月） 0の付く日の平日19：00～21：00 参加者数 1回あたり約5人 実施内容 ノーマディアに積極的に取り組んでもらうため、学習の場づくりを目的とし、自主学習方式で実施。長岡高校の生徒に講師を依頼し、疑問点等を相談して問題解決に結びつける。 課題等 参加者が少ない。

②成人教育事業

事業名	実施内容
出雲崎総合大学	・住民の学習意欲を促進し、健康で文化的な活力があふれ、生きがいのある生涯学習社会の実現を図ることを目的として開催する学習講座 ・全 13 回開催（5 月 24 日～12 月 5 日） うち 6/25(日)と 7/23(日)は公開講座として開催 ・主に平日の 13:30～15:30 に開催 ・入学者数 53 人（延べ 405 人） ・学習内容 ・雪国の植物 ・悪質商法被害防止講座 ・【公開講座】新潟県考古学講演会 「日本海域の海揚がりの土器・陶磁器」 出雲崎町教育委員会 小林主事が「出雲崎町の海揚がり」を報告 ・「良寛」記念館巡り 良寛記念館、良寛の里美術館、燕市分水良寛資料館を見学 ・【公開講座】「源川彦峰 作品展&記念講演会」 演題：良寛・鵬齋・彦峰の宇宙観 ・県立近代美術館「生誕 90 年 加山又造展 生命の煌き」鑑賞 ・県立歴史博物館出前講座「世界の中の北越戊辰戦争」 ・探訪ツアー「柏崎・十日町方面」視察研修 ・県立歴史博物館「川中島の戦いー上杉謙信と武田信玄」鑑賞 ・屏風の中の世界 ・屏風コレクション見学 ・地元の食材料理 コンニャク作り ・越後線出雲崎駅の歴史

③町民文化教室事業

事業名	実施内容
パソコン教室	実 施 日 6/2～12（6 回） ワード・エクセル習得コース 9/4～13（6 回） デジカメ・インターネット応用コース 11/22～12/1（6 回） 年賀状作成コース 参加者数 ワード・エクセル習得コース：4 人 デジカメ・インターネット応用コース：2 人 年賀状作成コース：4 人 講 師 笹川 正明 氏

事業名	実施内容
料理教室	実施日 6/3(土) 簡単!夏に向けて元気が出るメニュー 9/2(土) 夏を乗り切れ!いわしと旬の野菜の簡単メニュー 12/16(土) かんたん!クリスマス★パーティーメニュー 3/17(土) 春の彩りごはん 参加者数 計 53 人 講師 井原 美佐子 氏
コーヒーセミナー (新規)	実施日 7/8(土) コーヒーをはじめよう 参加費 1,080 円 10/15(日) フードペアリング編 参加費 3,240 円 12/10(日) おいしいいれ方編(クリスマス編) 参加費 3,240 円 3/11(日) ハンドドリップ編 参加費 3,240 円 参加者数 1 回目: 30 人、2 回目: 23 人、3 回目: 9 人、4 回目: 12 人 講師 スターバックスコーヒー コーヒーマスター
フラワー アレンジメント 教室 (新規)	実施回数 全 9 回実施 前期 (6/21、7/8、29、9/9) 後期 (10/14、28、12/9、3/24) 参加者数 計 77 人 時間 水曜日、土曜日 10:00~11:30 講師 明田川 綾子 氏
親子・大人陶芸 教室 (新規)	実施日 7 月 29 日(土)、9 月 9 日(土) 参加者 各回 5 人 内容 「親子・大人の陶芸教室」として、陶芸の楽しさを知るきっかけづくりの教室。 講師 藤田 征一 氏
おうちパン講座 (新規)	実施日 12 月 16 日(土) 内容 「基本のフライパンパン」 1 月 27 日(土) 内容 「チョコスティックパン」 2 月 17 日(土) 内容 「フライパンであんパン」 参加者 計 29 人 講師 細木 百合子 氏
絵本読み聞かせ 講座 (新規)	実施日 7 月 15 日(土) 参加者 8 人 12 月 2 日(土) 参加者 6 人 内容 子育て中のお母さん、お父さん、孫に絵本を読んであげたいおじいちゃん、おばあちゃんと子供が対象の講座。 絵本専門士の先生がクリスマスにちなんだ本の読み聞かせや、おうちでできる手遊びを学んだ。 講師 大平 光代 氏

事業名	実施内容
ちぎり絵教室	実施回数 全 19 回開催 第 2、3 火曜日 19:00～20:30 受講者 6 人 内 容 3 年目に入り、和やかな雰囲気の中、基本から徐々にレベルアップした内容の制作に取り組む。 講師 田中 恵子 氏

④文化活動事業

事業名	実施内容
第 11 回未来の夢こども体験講演会	対 象 出雲崎小、中学生及び一般町民 来場者約 350 人 実 施 日 10 月 24 日 (火) 講 師 小林 さやか氏 (ピリギャルのモデル)
文化芸術鑑賞会	対 象 出雲崎小、中学生及び一般町民 来場者約 500 人 実 施 日 6 月 26 日 (月) 内 容 落語パラダイス～笑う門には福来たる～
第 13 回良寛さん心の書道展	目 的 子供たちに良寛さんのやさしい心を継承する 対 象 出雲崎小、中学生 応 募 数 262 点 展示期間 9 月 16 日 (土) ～24 日 (日) 会場：中央公民館講堂
東京藝大生招致事業	参加者数 東京藝術大学 大学院生 9 人 実 施 日 8 月 1 日 (火) ～4 日 (金) 3 泊 4 日 内 容 街並スケッチ画を制作し、完成した作品の鑑賞会と作品を町へ寄贈。出雲崎小中学生を対象としたスケッチ画講習会を実施。 ※今年度第 3 版となる画集を作製。
生涯学習フェスティバル	作品展示 11 月 2 日 (木) ～3 日 (金・祝) 出展者 15 団体+個人 22 人 ステージ発表 11 月 3 日 出演団体 13 団体 その他の催し物 11 月 3 日実施 町民茶席 (町婦人会) 防災コーナー、交通安全コーナー (総務課) 健康づくりコーナー (保健福祉課) 廃棄図書 of 無料配布 (図書館)
文化サークル活動助成	・ 7 サークルに助成 (スポーツダンス、陶芸、太極拳、大正琴、書道、ガーデニング、英会話)
関係団体活動助成	・ 3 団体に助成 (奥の細道天の河俳句大会実行委員会、出雲崎妻入りの街並景観推進協議会、街並活性研究会)

事業名	実施内容
良寛記念館	○良寛アニメーション「天上大風」完成披露上映会&監督山本二三トークショー開催 期 日 5月14日(日) 会 場 天領の里 研修室 来場者 130人(定員130人) ○国登録有形文化財としての「良寛記念館」の魅力説明会開催 期 日 5月14日(日) 来場者 30人 ○年4回の企画展開催 ・春の企画展「良寛の内観展」～新たに発見された四作品を初公開～ ギャラリートーク 4月29日(土)開催 ・夏の企画展「子どもたちの良寛展」 ～良寛さまの逸話を学ぼう～ ギャラリートーク 7月30日(日)開催 ・秋の企画展「良寛の山本家展」～良寛生誕の山本家の作品を展示～ ギャラリートーク 10月22日(日)開催 ・新春企画展「良寛さんに学ぶ展」 ○新春特別講演会開催 期 日：平成30年2月18日(日) 演 題：「良寛さんに学ぶ」 講 師：全国良寛会会長 長谷川 義明氏 来場者：40人 ○倉敷市・長野市良寛書画展開催 目 的 良寛・良寛記念館及び出雲崎町の認知度を高めるため良寛書画展を企画。 展示内容 良寛遺墨等10点(良寛記念館館長等が説明)及び良寛アニメーション「天上大風」の上映と原画の展示。なお、倉敷市では商工会・観光協会が特産品販売(ボンダラバーガー等)を実施。 倉敷市では玉島地域の方と交流会を実施。 開 催 日 倉敷市 11月11・12日(土・日) 長野市 12月2・3日(土・日) 来場者数 倉敷市 書画展180人 物産販売1,500人 長野市 215人



芸大生スケッチ画講習



文化芸術鑑賞会

⑤学社連携事業

事業名	実施内容
学校・家庭・地域の連携促進事業（学校支援地域本部）	学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを目的としている。 地域コーディネーターが中心となって、地域の様々なボランティア指導者や団体と協力して小中学生を対象に活動を実施。
放課後子ども教室	目 的 放課後の空き教室を利用し、ALT の講師による英語活動を実施。 実施期間 4 月から 3 月 参加児童 1 年生：15 人（2 学期から） 2 年生：13 人 3 年生：11 人 4 年生：12 人 5 年生：5 人 6 年生：5 人 計 61 人 実 施 日 各学年ごとにローテーションを組んで実施。 月曜日 4～6 年生 火曜日 1～3 年生 参 加 費 無料 そ の 他 児童クラブの子供も参加できるように教室終了後は町職員・介助員が児童クラブへ誘導。 実施回数 計 65 回実施 実施回数 1 年生：8 回（2 学期から参加） 2 年生：14 回 3 年生：15 回 4 年生：14 回 5 年生：11 回 6 年生：13 回（5・6 年生は 2 学期から合同で実施）
子育て教育講演会	期 日 平成 30 年 2 月 28 日（水） 講 師 NPO 法人多世代交流館になニーナ代表 佐竹直子 氏 演 題 私たちの命の力～誕生秘話～ 来 場 者 30 人



放課後子ども教室



長野良寛書画展

⑦その他事業

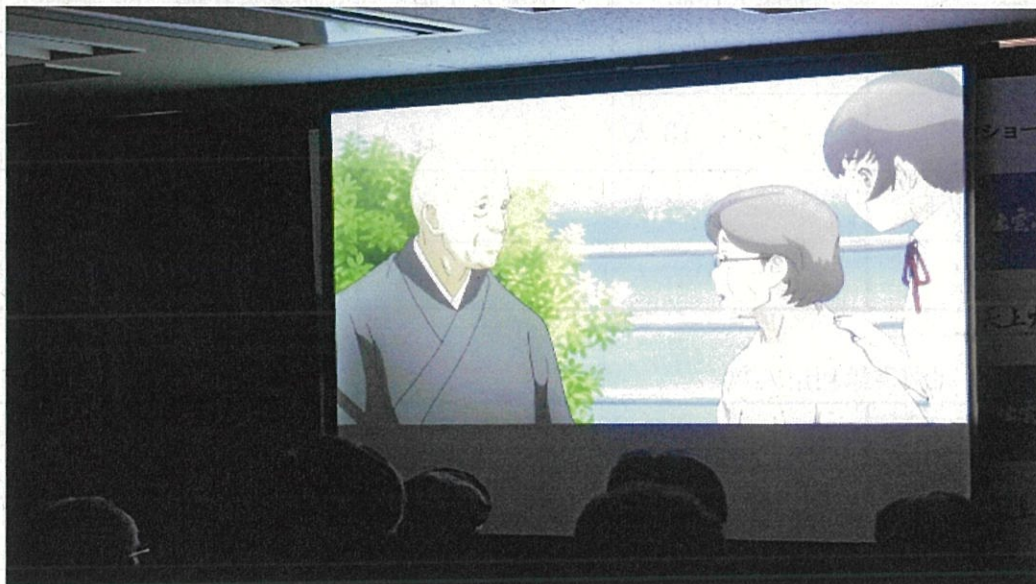
事業名	実施内容
生涯学習 カレンダー作成	町、学校、社協などの実施事業を掲載したカレンダーを作成し、町の各世帯や事業所に配布する。(作成部数 1,850 部)
公民館だより発行	毎月 1 回 (4 ページ)、公民館の活動内容などを紹介した「公民館だより」発行し、町の全世帯に配布する。なお、仕分け作業等をふれあいサポートセンターに委託している。

⑧公民館利用者数

平成 28 年度		平成 29 年度	
海岸公民館	中央公民館	海岸公民館	中央公民館
3,086 人	11,549 人	3,074 人	10,908 人

⑨良寛記念館入館者数

平成 28 年度		平成 29 年度	
入館者数	物品販売額	入館者数	物品販売額
10,512 人	3,083,944 円	9,751 人	2,774,867 円



良寛アニメ上映会

2. 図書館事業

①図書館利用状況

表1：分類別利用状況

	平成 28 年度		平成 29 年度	
	海岸公民館	中央公民館	海岸公民館	中央公民館
総 記	20 冊	7 冊	23 冊	2 冊
哲 学	77 冊	28 冊	77 冊	27 冊
歴 史	57 冊	39 冊	59 冊	20 冊
社会科学	98 冊	40 冊	54 冊	29 冊
自然科学	51 冊	27 冊	59 冊	25 冊
技 術	149 冊	64 冊	73 冊	30 冊
産 業	30 冊	10 冊	24 冊	10 冊
芸 術	154 冊	25 冊	94 冊	18 冊
言 語	16 冊	3 冊	11 冊	2 冊
文 学	1,895 冊	905 冊	1,743 冊	1,054 冊
雑 誌	151 冊	18 冊	145 冊	27 冊
計	2,698 冊	1,166 冊	2,362 冊	1,244 冊

表2：図書貸出年齢別貸出人数

	平成 28 年度		平成 29 年度	
	海岸公民館	中央公民館	海岸公民館	中央公民館
成人（23 歳以上）	940 人	484 人	505 人	99 人
学生・生徒 （13 歳～22 歳）	13 人	2 人	41 人	19 人
児童（12 歳以下）	84 人	9 人	175 人	21 人
合 計	1,037 人	495 人	721 人	139 人

表3：年齢別図書館利用人数

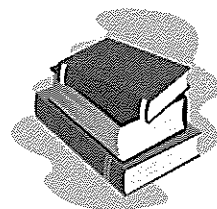
	平成 28 年度		平成 29 年度	
	海岸公民館	中央公民館	海岸公民館	中央公民館
成人（23 歳以上）	554 人	108 人	495 人	97 人
学生・生徒 （13 歳～22 歳）	45 人	21 人	41 人	19 人
児童（12 歳以下）	226 人	26 人	171 人	20 人
合 計	825 人	155 人	707 人	136 人

表 4：図書購入状況

	平成 28 年度		平成 29 年度	
	海岸公民館	中央公民館	海岸公民館	中央公民館
総 記	3 冊	1 冊	4 冊	2 冊
哲 学	11 冊	6 冊	16 冊	3 冊
歴 史	17 冊	5 冊	14 冊	2 冊
社会科学	27 冊	14 冊	18 冊	13 冊
自然科学	23 冊	7 冊	31 冊	17 冊
技 術	16 冊	17 冊	22 冊	8 冊
産 業	4 冊	2 冊	8 冊	1 冊
芸 術	20 冊	6 冊	12 冊	1 冊
言 語	5 冊	1 冊	2 冊	3 冊
文 学	274 冊	195 冊	265 冊	194 冊
計	396 冊	246 冊	392 冊	244 冊
(雑誌種類)	6 種類	3 種類	6 種類	3 種類

②その他事業

事業名	実施内容
ブックスタート事業	1 歳 6 ヶ月になる幼児に絵本 2 冊を贈呈している。
親子文庫	小学校を通じて、小学 2～5 年生の家庭に対し、本のセット（児童とその保護者）を貸し出す。
除籍図書の無償配布	11 月 3 日の生涯学習フェスティバルにおいて除籍した図書を無償で配布。



3. 社会体育事業

①町内大会

大会名	実施日	備 考
第 37 回 町民ソフトボール大会	6 月 4 日 (日)	4 チーム 45 人
第 39 回 町民バレーボール大会	7 月 9 日 (日)	7 チーム 78 人
第 11 回 町民ウォーキング	10 月 1 日 (日)	66 人
第 36 回 町内ゲートボール大会	10 月 4 日 (月)	9 チーム 60 人
第 28 回 町民ソフトバレーボール大会	11 月 19 日 (日)	13 チーム 80 人
第 2 回 町民卓球大会	2 月 11 日 (日)	16 チーム 100 人
第 37 回 町民バドミントン大会	3 月 11 日 (日)	6 チーム 42 人
第 31 回 屋内ゲートボール大会	3 月 14 日 (水)	8 チーム 54 人



町民バレーボール大会



町民卓球大会

②スポーツ教室等

大会名	実施日	備 考
わんぱく水泳教室	7 月 26 日～8 月 1 日	申込：40 人 延べ：176 人
柔道教室	通年 (火・金)	18 人
剣道教室	通年 (月・金)	6 人
柔剣道昇級審査会	12 月 3 日 (日)	24 人
さわやかスポーツ教室	通年 (火)	45 人 延べ：380 人
背骨コンディショニング教室	全 10 回	48 人 延べ：185 人

大会名	実施日	備 考
小学生スポーツチャレンジ教室	サッカー：5～10月 バレー：5～10月 卓球：10～12月 バスケ：10～12月	サッカー 申込：45人 延べ：527人 バレー 申込：13人 延べ：214人 卓球 申込：29人 延べ：137人 バスケ 申込：7人 延べ：39人
親子インディアカ教室	1月～2月	15人 延べ：45人
スキー&スノーボード教室	2月18日（日）	魚沼市須原スキー場 33人参加



スキー&スノーボード教室



サッカー教室

③体力づくり事業（実施場所：町民体育館2階トレーニング室）

事業名	実施日	備 考
トレーニング教室	第1期：5月～10月 第2期：10月～3月	申込：21人 延べ：256人 申込：24人 延べ：284人

④体育協会主催事業

事業名	実施日	備 考
姉妹都市 中学生交流スポーツ大会	7月1日（土）	会場：柳津町 47人
姉妹都市 親善スポーツ大会	10月9日（月・祝）	会場：出雲崎町 70人
第16回 出雲崎町近郷ゲートボール大会	3月3日（土）	16チーム 96人

⑤スポーツ推進委員関係

事業名	実施日	備 考
中越地区社会体育研究協議会	4 月 26 日（水）	長岡市
中越地区社会体育総合研修会	5 月 27 日（土）	田上町
北陸地区スポーツ推進委員研修会	6 月 24 日（土）～25 日（日）	富山県
新潟県スポーツ推進委員大会	9 月 23 日（土）～24 日（日）	新潟市
二市三刈羽ブロック研修会	10 月 14 日（土）	柏崎市

⑥長岡地域定住自立圏スポーツ振興事業

- ・スポーツ指導者派遣事業
「小学生スポーツレベルアップカレッジ」 3 月（全 5 回）



柳津町・出雲崎町中学生スポーツ交流大会



出雲崎町近郷ゲートボール大会

⑦体育施設利用状況

	平成 28 年度	平成 29 年度
町民体育館	36,812 人	27,623 人
（トレーニング室）	（8,619 人）	（9,189 人）
（ミーティング室）	（4,134 人）	（383 人）
町民野球場	4,759 人	4,544 人
テニスコート	334 人	49 人
プール	4,957 人	4,252 人
柔道場	1,318 人	1,286 人
屋内ゲートボール場	5,237 人	5,568 人

＞概 要

平成 29 年度は、青少年や一般成人等を対象とした各事業について、学習ニーズの高まりや多様化に対応できるように内容の一層の充実を図ってきた。

1. 未来を担う子供たちの人間力を高めるため、就学前幼児や小中学生を対象とした教室、保護者を対象とした家庭教育学級等の内容の充実を図った。
2. 町民のニーズに応じた幅広い講座や文化教室を推進し、内容の充実を図りながら、学習機会の促進を図った。
3. 家庭学習の指導にも発達段階に応じた指導を進めている。どの段階でどのような指導を行うことが必要なのか、学校、家庭と地域、教育委員会が連携を取りながら、家庭学習の充実・定着を図っている。

＞成果と課題

1. 文化教室の受講者は高齢者が主であり、定期的に出かける場となることで孤立化を防ぎ、仲間づくりにつながるので有効なものと考えている。一方、講師の高齢化や参加者が固定化により新規参加がしにくいことや、サークルへの自主的活動への移行など今後のあり方について検討が必要である。
2. 総合大学では人気があり、「講座終了後も設けてほしい」などのニーズがあるため、今後も多彩な講座やセミナーを計画し、身に着けた知識や技能を地域などで役立たせる人（コーディネーター）を増やす必要がある。
3. 新規文化教室はコーヒーセミナーを始め人気の高い教室もあり、若者参加の掘り起こしにつながり、今後もニーズを捉えた教室開催が望まれる。
4. インターネットやスマートフォンの普及により読書離れが進んでおり、子供たちの健やかな成長には読書を推進していくことが重要で、今年度子供読書活動推進計画を策定したので、これにより学校・家庭における読書推進図らなければならない。
5. 中公 3 階の郷土資料室ではボランティアによる資料整理により収納の効率を図り、イベントなどで積極的に展示するなど気軽に立ち寄れる公民館づくりを目指す。
6. ネット社会の進展により、子供たちのネットいじめ、ネット依存などメディアコントロール力を高めることが課題である。家庭内でのメディアやゲーム機の決め事を話し合っって子供たちの心や行動に影響しない取組を継続していかなければならない。
7. 国の打ち出している総合戦略の中で、人口増加対策・交流人口を増やしていく政策を進めなければならない。町の重要な観光施設である良寛記念館は昨年度「国登録有形文化財」に指定され、これを機に良寛記念館の再生をハード、ソフト両面から検討し、より充実した施設整備と PR 活動の計画を作成し、今年度からソフト事業を順次展開している。
8. 伝統芸能の育成は団体に働きかけ行いながら、一方で青少年育成講座などの教室で興味を持ってもらう動機付けが必要であるので、指導できる体制づくりをめざす。

V 学校・社会教育施設の整備充実

➤整備の状況	1 学校教育施設の主な整備状況 (1) 出雲崎小学校 ○保健室シャワールーム設置工事 ○来客用駐車場整備工事 ○校舎棟空調設備改修工事（H28 繰越） (2) 出雲崎中学校 ○校舎棟屋上防水工事（H29 完了） ○校舎棟空調設備改修工事（H30 へ繰越） 2 社会教育施設の主な整備状況 ○埋蔵文化財試掘調査委託 ○良寛と夕日の丘公園整備工事設計委託 3 社会体育施設の主な整備状況 ○町民体育館屋上防水改修工事 ○町民プール等外壁改修工事 ○多目的運動場整備工事
---------------	---

➤概要

当町では、学校教育施設や社会教育・社会体育施設等の整備は、計画的に進めてきており、それぞれの施設の大規模改修工事や機器の購入などの整備はおおむね完了した。また、本年度は安全上緊急を要する改修工事や機器の購入などの整備を行った。

➤成果と課題

学校施設は、小学校では夏場学習環境の改善を図るため空調（エアコン）設備工事を行った。これにより熱中症などによる保健室への来室者が減り効果があった。中学校でも来年度、空調設備工事を行う予定である。また老朽化により、屋上防水工事を2ケ年に分けて行い、校舎棟施設の延命化が図られた。

社会教育施設では2年目となる八手地区の圃場整備における埋蔵文化財の発掘調査を実施した。また、来年度実施する良寛記念館の庭園エリアのバリアフリー化を含めた遊歩道整備を行うための設計委託を行った。

社会体育施設では町民体育館の屋上防水対策と町民プールの外壁改修を行った。多目的運動場はテニスコートの老朽化により、人工芝の多目的に使用できるように整備し、町民の健康増進とスポーツ振興に役立つ施設として利用率向上を図っていく。

今後とも、厳しい財政状況の中ではあるが、老朽化する施設の維持管理については、年次計画を立てた中で、更新・改修・整備等を図り、長寿命化などに対応していかなければならない。

VI 学識経験者からの総合評価

元長岡市立北中学校長 山崎 十五郎

これからの子供たちは、人、もの、情報が国境を越えて簡単に移動するという社会に生きていく。そのためには、コミュニケーションを図る力が非常に大事になってくる。語学力というスキルのみならず、自分自身の中身が問われるのである。その中身とは、生まれ育ったところの文化や、そこに根ざした価値観に他ならない。まさしく貴教育委員会が、「第5次出雲崎町総合計画」に基づき推進する、「夢・感性あふれる教育と歴史文化香るまちづくり」がめざすところである。

今、民間・行政を問わず国を挙げて「働き方改革」への取組が進んでいる。このことは教育の場においても喫緊の課題といわざるを得ない。勤務時間数の改善は業務内容の見直しと組織力の強化が必須であるが、貴教育委員会は着実に成果を上げている。授業時数確保のため、長期休業日の改正を行い学校長の裁量で柔軟に対応できるようにしたこと。英語指導員、理科支援員、情報教育支援員などの専門スタッフを配置していること。また、夏場学習環境整備のために、空調設備工事に着手されたことなどが挙げられる。

学校教育においては、グランドデザインに沿って学校評価がきちんと行われている。小学校では、調査結果のグラフ表示に改善のあとが窺える。中学校では、重点目標の上位に「人間関係づくり」を掲げており、そのことが自己肯定感・自己有用感の高い評価につながっている。しかし、豊かな人間関係づくりの項目では十分な結果とは言い難い。保護者の声にもあるように、子供同士になると粗雑な言葉が時折出てくる。今後とも児童生徒の見取や観察に留意してほしい。

なお、学校支援地域本部事業は、学校と地域の連携・協働が推進される中で、9ヶ年を通じて発達段階に応じた活動が展開されている。伝統芸能の「出雲崎おけさ」を取り入れるなど、「地域みんなで子供たちを育てていこう」という意識の高まりが感じられる。

また、従来から貴町では、メディア・コントロール教育を進めてきているが、今年度それに合わせて、「子ども読書活動推進計画」を策定したことは極めて意義深いことである。読書活動を通じて、子供たちが言葉を学び、感性を磨き思考力を高めることが知的探求心を呼び起こし、そのことがそれぞれの生活習慣の改善にもつながると考えるからである。

社会教育事業においては、青少年から一般成人を対象とした各事業において、ニーズに応じた多様な取組が見られる。参加者の多少にかかわらず、その独自性は貴重なものである。

最後に、国の施策としても幼児教育から高等教育に至るまで経済的事情による教育格差の是正に取り組んできているところである。貴町においては、入学祝い金の支給や通学定期券の一部助成が行われており、今年度から奨学金の一部助成が創設された。また、0歳児から18歳までの子供の教育、福祉、医療をつなぐ拠点としての「子育て支援センター」建設への取組が進められている。そのことに対して衷心より敬意を表するものである。

Ⅶ そ の 他

○指導いただいた学識経験者名 (敬称略)

職 名	氏 名	備 考
元長岡市立北中学校長	山崎 十五郎	柏崎市在住 (旧西山町)

○町教育委員会関係者名簿

—教育委員—

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

職 名	氏 名	備 考
教育長	佐藤 亨	
委員	村越 隆夫	教育長職務代理者
委員	内山 才子	
委員	佐藤 正志	
委員	大磯 多華子	

—職員名簿—

職 名	氏 名	備 考
教育課長	矢島 則幸	
管理指導主事	高畑 秀紀	
教育課参事	金泉 嘉昭	
教育課参事	権頭 昇	
教育課係長	渡辺 一敏	
教育課主任	小林 ひろ子	
教育課主事	片桐 尚亮	
教育課主事	佐藤 真吾	
教育課主事	小岩 悠樹	
事務職員	竹村 しのぶ	
事務職員	小川 真紀子	
用 務 員	小林 秋子	
清 掃 員	柴田 圭一	
良寛記念館 館長	本間 勲	
同 館長代理	永寶 卓	学芸員
同 事務職員	小黒 晴美	
同 事務職員	大久保 淳子	